

在鸣门 第121期

13日に鳴門に来て、あっという間に4月が過ぎてしまいました。来たばかりなのに、海に囲まれているこの町には親近感が不思議と湧き、また、同時に引きつけられます。休みの日には自転車に乗って、青々とした海岸沿いの道を走りました。



来到鸣门是4月中旬的13号,当时就被这个海边的小城所吸引了。转瞬间就到了5月了。在双休日的时候,我骑着自行车,沿着鸣门市的漫长的海岸线开始了我的自行车半日自由行。

私は中国湖南省張家界市から来ています。張家界は山の形が奇抜で中国初の国定公園でありながら世界自然遺産にも登録された町として有名です。市内には湖南省北西部を流れる大きな川の澧水や湖がたくさんあります。



もともと水を見るのが好きです。今度鳴門に来ることができたら、また、この海と触れ合いたいです。

我来自于中国湖南省张家界市。张家界是我国首个国家森林公园，也被列为世界自然遗产。是一个以山而著称的城市，市内拥有湖南境内的四大水系之一的澧水，更有着无数清澈见底的小溪。本身也喜欢看水，到了鸣门后看海成了我的一个兴趣。

その日はとても風がつよかったです。鳴門の皆さんはよくこの風の強い町で生活をしているなど感じました。生まれてはじめてこんな強い風に吹かれて歩きました。でも、海を見に行こうと思う私には何より海を見たいという気持ちが優先になりました。雲一つなく澄んだ空を見るとなんとなく風に乗せられ青空に溶け込みそうになりました。海も透き通っていて、海藻や水母の姿もよく目に入りました。ちょうど春なので、卵から孵ったばかりの魚もよく見かけました。小魚の群れが海の中で自由に泳いでいます。偶然にも群れからはずれた4、5匹の小魚がかくれんぼうでもしているようにもって海の深いほうへと潜んでいきました。遠くでは鴨は波に浮かんで休憩しているようです。



途中で自転車に乗っている女子学生たちとすれ違いました。この辺に住んでいるのでしょうか。塾が終わって一緒に家に戻る途中のようです。話しながらその笑い声が遠くすれ違っても、風に流されて耳に入った。道端には名も知らぬ可愛らしい花がいっぱい咲いています。たいていは見たことのない花である。白だったり、ピンクだったり、オレンジ色だったり、紫だったり、色とりどりの花はこの空と海が成す一色の景色を彩りました。鴨は海の波に浮かんで、鳶は空を高く飛んでいて、調和的な感じです。

骑着自行车出游的那天风非常大，有时甚至无法骑着自行车前行，但是丝毫没有影响我去看海的心情。看着那青空真想乘风登上苍穹。大海清澈，在水中可以看到水母和小鱼儿在游动。估计是刚刚孵出来的小鱼，成群结队地在海中游来游去。有4、5条小鱼像是在躲猫猫

似的，离群游往了大海深处。原处野鸭浮在海面上随着风浪悠闲地荡漾着。中途和一群骑着自行车的女中学生擦肩而过，她们大概住在这附近吧，估计是补课回家的途中。她们在交谈着，笑声随着风飞到了我的耳畔。路边开满了花儿，我都叫不上名字。有白色、粉红色、橘黄色、紫色，为海天一色的背景增添了绚丽多彩的颜色。野鸭在海面漂浮着，隼则在蓝天翱翔，一幅非常和谐的风光。

ところで、日本に来て気付いたことは公の場ではゴミ箱があまり設置されていないことです。日本の友人から教えてもらって日本人はゴミを持ち帰るそうです。確かに鳴門の海岸沿いなどを自転車で走っている時、人通りの少ない所でもゴミがほとんど落ちていないです。ゴミを勝手に捨てることをしないだけでなく、ちゃんと分類してゴミをだすことが法で定められています。ですからこの一年間の鳴門の生活を始めるに当たって、まずはゴミの回収の仕方についての勉強です。ゴミの分別は細かく分けられている。瓶といっても色別に分けて出す。プラといってもトレイや発泡スチロールは別々に店頭回収になります。資源ごみとなる牛乳パック等は中を濯いで開いて乾燥させてから出すとは、我が国では考えられないです。ごみの減量、リサイクルなどに積極的に取り組んでいる所は印象深かったです。このきれいな海とそこを家とする魚や鳥たちに、いつまでものびのびと生きて欲しいです。「雨にも負けず、風にも負けず」と宮沢賢治の詩を思い出して、強い風の日には景色を楽しみながら自転車で走り続けました。

这美丽风景自然而然的首要因素就是干净。来到日本后发现的一个现象就是日本的街头几乎看不到垃圾桶。日本的朋友告诉我在日本大家都是各自把垃圾带回家的。沿着鸣门的海岸骑着自行车路过之处，哪怕是人很少的地方几乎都没有看到有垃圾。日本人不随手乱丢垃圾而且关于垃圾处理有着整套的严格的法律规定。因而在鸣门一年的生活里，首先要适应的就是正确的处理生活的垃圾。垃圾分类处理，就算是玻璃瓶也要分颜色丢，比如咖啡色、白色、透明等等。塑料制品也分得很详细，比如超市的塑料托盘或者泡沫都要送到超市的店门口专门设置的回收处，一般的塑料包装就归类单独处理。纸等资料如果是牛奶盒还需要清洗干净，把它拆开晒干以后送到你所住的资源回收单位。这些让我们难以想象。日本的确致力于环保，比如减少垃圾或者加大再利用率等等。让我印象很深刻。希望小鱼和海鸟能够一直在这片蓝天碧海中悠然自得地生活。在大风中我想起了宫泽贤治的有名的一句诗“在大雨中，在狂风中不要后退”，继续我的鸣门自行车之旅。

部门：鸣門市観光振興課

地址：鳴門市撫養町南浜字東浜 170

(〒772-8501)

TEL：088-684-1746 / FAX：088-684-1339

E-mail：kokusai@city.naruto.lg.jp

编辑：霍 良